

「昭和の日」宣言

本年本日より、昭和天皇のお誕生日だった四月二十九日は、国民の祝日「昭和の日」として新しく出発しました。「激動の日々を経て、復興を遂げた昭和の時代を顧み、国の将来に思いをいたす」祝日です。

昭和の日本は、栄光の明治と、希望と不安が交錯した大正のあとをうけ、国民の和合と世界の平和を願って船出をしました。しかし、厳しい国際情勢のもと、困難な戦争への道を余儀なくされ、アジアの植民地解放の理想をかかげて戦った大東亜戦争も、いたましい敗戦に終わってしまいます。まさに激動の日々でした。

戦争終結にあたり、昭和天皇は「自分はいかになろうとも、万民の生命を助けたい」「堪えがたきを堪え、忍びがたきを忍び、以て万世の為に太平を開かんと欲す」との聖断をくだされました。これによって、わが国は秩序ある終戦を迎え、再建に向けた足がかりをつかむことができたのです。

戦後、国民は力強く復興への歩みを始めます。その後の日本のめざましい発展は、戦死者に対する追悼と国民への慈しみの御心のまま、ひたすら国の隆昌と世界の共存共栄とを願われた昭和天皇の祈

りに支えられたものでした。

昭和の歴史は、後世の日本人に数多くの示唆を与えてくれます。平和の尊さ。天皇を中心に国民が心を合わせることの大切さ。経済の繁栄には心の豊かさが伴わなければならないこと。どんな逆境からでも、日本人は必ず立ち直る活力を持っていることなど。それらはどれも、国の将来を導くかけがえのない道しるべです。

私たちはここに、昭和天皇をお偲びするとともに、民族の悲境をみごとに乗り越えた「昭和」への思いを、次代に正しく受け継いで行くことを誓います。

はじめての「昭和の日」にあたり、以上宣言いたします。

平成十九年四月二十九日

昭和の日をお祝いする実行委員会

「昭和の日」記念式典参加者一同